

名古屋観世会

令和3年

9月20日【祝・月】

12時3分開演

(11時30分開場)

能田

村・梅若
長胡床
実

狂言

萩大名・井上松次郎

能鉄

輪・久田
早鼓之伝
勘鷗

年間指定席券(2回) 20,000円

年間自由席券(2回) 16,000円

当日指定席券 12,000円

当日自由席券 10,000円

学生券(自由席) 3,000円

すでにご購入済みの「年間チケット」を指定席に変更できます。

●年間自由席→指定席に変更の場合 差額 2,000円

【共催】認定NPO法人 名古屋能楽振興協会

指定席券を指定日にご利用できなかった場合、年度内ならば自由席券としてご使用できます。その時は必ず受付にて当日券に変更してください。※自由席満席の場合はご容赦ください。

能
鉄

狂言
萩大名

能
田

仕舞

番組

小鍛冶 吉沢 旭
井筒 村井 邦子
山姥 松山 幸親
瀬戸 洋子

シテ 梅若 実

村 飯富 雅介
長胡床 小鼓 河村 眞之介
小鼓 船戸 昭弘

間 鹿島 俊裕

後見 川口 晃平
山崎 正道

休憩 二十分

井上 松次郎

井上 蒼大
佐藤 融

シテ 久田 勘鷗
輪 飯富 雅介
早鼓之伝 大鼓 河村 総一郎
小鼓 後藤 嘉津幸

間 佐藤 友彦

後見 林 宗一郎
上田 公威

地謡 伊藤 裕貴
吉沢 旭
本田 勲
松山 幸親
祖父 江修一
山崎 正道
観世 芳伸
大西 礼久

(16時半頃終了予定)

◆田村(たむら)

【あらすじ】春の季節です。東国の僧が都見物で清水寺にやって来ます。境内の桜の盛りに感心していますと、一人の童子が現れ、木陰を掃き清めます。僧が寺の来歴を聞きますと、童子は坂上田村麿と賢心・行叡居士の縁起を語り、行叡居士とは観音菩薩の生まれ変わりであると話します。そして、辺りの名所を尋ね、共に花見をしています。僧は童子の常人ならぬ様子に、名を問います。童子は、私の帰る先を御覧なさいと言いつつ、田村堂へと入っていきます。僧は清水寺門前の者に田村麿の供養を勧められ、夜もすがら桜の木陰で経を読んでいます。武将姿の田村麿が現れ、僧の説諭に感謝します。そして、自分が東夷を平らげ、悪魔を鎮め、天下泰平の忠勤をしたのも、清水寺の仏力だと述べ。また、勅命を受けて、鈴鹿の賊を討伐するべく軍兵を進めた時、千手観音が現れ、その助勢で敵を倒すことができたと言いつつ、観音のありがたさを語ります。

◆鉄輪(かなわ)

【あらすじ】貴船神社の社人が、不思議な夢の内容を告げようと、丑の刻(午前2時頃)参りの女人を待っています。そこへ夫に捨てられ、後妻の女を恨みに思う女がやって来ます。社人は女に、家に帰って、赤い衣を着、顔に丹を塗って、頭に鉄輪を戴き、三つの足に火を灯し、怒る心を持てば、願い通り鬼神になれると、お告げを伝えますと、女は恐ろしい形相に変わっていきます。一方、夫はこのところ夢見が悪いので、陰陽師の安倍晴明のもとを訪れます。晴明は男を見て、女の恨みで今夜にも命が危ないと言立てます。晴明は災いを転じようと、等身大の茅の人形を作り、それぞれ名前を内に籠めて祈ります。頭に鉄輪を載せ、鬼となった女の生霊が現れ、夫の人形を相手に恨みを述べ、命を取らんと後妻を激しく打ちすえますが、三十番神(30日替わりの神)が現れ、魍魎鬼神は穢らわしいと責められます。生霊は不満を残しながらも、勢いがなくなっていく、この度は帰るべしと消えていきます。

◆御案内

- 一、都合に依り曲目、出演者に変更があるかも知れませんが予めご承知下さい。
- 一、演能中は静かに又演能中のお出入りはなるべく遠慮下さい。
- 一、録音、撮影等はかたくお断り致します。
- 一、携帯電話及び時計のアラーム等はあらかじめ電源をお切り下さい。
- 一、幼児のご入場は勝手作らお断り致します。
- 一、演能終了後の拍手はシテが幕に入ります迄御遠慮頂ければ幸甚に存じます。

名古屋観世会



名古屋能楽堂
〒460-0001 名古屋市中区三ノ丸一丁目1番1号

TEL.052-231-0088

FAX.052-231-8756
http://www.bunka758.or.jp/

【主催】名古屋観世会

【共催】認定NPO法人 名古屋能楽振興協会